

所管事務調査報告書

【令和6年10月29日～30日】



(ストーンミュージアム博石館にて)

石川町議会 文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会 所管事務調査報告書

- 1 調査目的 滋賀県の田上地域、福島県の石川地域と並び日本三大鉱物産地として数えられる岐阜県中津川市苗木・蛭川・福岡地区一帯は、「苗木ー上松花崗岩」と呼ばれる花崗岩の分布域で、この花崗岩体からは水晶・トパーズをはじめとして各種多様な鉱物が産出されることから、鉱物の一大産地「苗木地方」として明治時代からよく知られてきた。
- 中津川市蛭川にあるストーンミュージアム博石館は、約7千坪の敷地内に、世界の貴重な鉱物と蛭川産の鉱物の展示館を中心に、高さ約15mの御影石のピラミッド、各鉱石の体験コーナー、石の美術館が点在する石のテーマパークであり、ストーンパーク株式会社が運営する。
- また、1988年に地質系自然史博物館として開館した中津川市鉱物博物館は、苗木出身のアマチュア鉱物研究者とその子息である地球化学者から寄贈を受けた「長島鉱物コレクション」を基礎に展示を行い、その後2008年には登録博物館となっている。
- 本委員会では、ストーンミュージアム博石館及び中津川市鉱物博物館の運営方法等について所管事務調査を実施し、令和6年4月に移転オープンした石川町立歴史民俗資料館の運営等に係る政策提言や、今後の委員会活動等の参考にするものである。

2 調査日時 令和6年10月29日(火)～30日(水)

3 調査場所 **1日目** 10月29日(火)
研修① ・岐阜県中津川市「ストーンミュージアム博石館」
調査時間 午後2時から午後4時

2日目 10月30日(水)
研修② ・岐阜県中津川市「中津川市鉱物博物館」
調査時間 午前9時から午前11時

4 調査事項 **1日目** 「ストーンミュージアム博石館」
研修① ・「見て 触って 体験する」がテーマの博石館。展示方法、企画等について視察。

2日目 「中津川市鉱物博物館」
研修② ①名古屋大学博物館との協定
②鉱物採取体験施設
③博物館ボランティア
④ミュージアムマネジメント
⑤市民講座 ⑥博物館等協議会

- 5 参加者 文教厚生常任委員会委員（7名）
 瀬谷寿一委員長、根本重泰副委員長、迎茂城委員、
 星恵子委員、菊池美知男委員、瀬谷京子委員、乾初美委員
- 所管課職員（1名）
 角田学館長（歴史民俗資料館）
- 議会事務局職員（1名）
 瀬谷利幸事務局長

6 調査地概要

岐阜県中津川市の概要

①自然・社会的条件等

岐阜県の島南端に位置し、東は木曾山脈、南は三河高原に囲まれ、中央を木曾川が流れている。

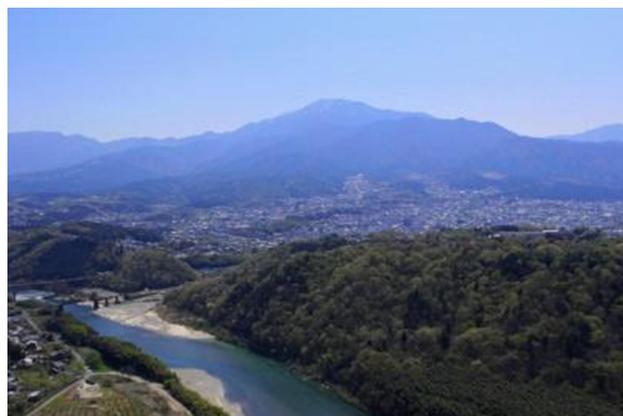
東西 28 km、南北 49 km、総面積 676.45 km²で、岐阜県内で 6 番目に広い面積を持つ市であり、まちのシンボル恵那山をはじめとする山々の懐に抱かれ、長い歴史を歩んできた。

古くは東山道、中山道、飛騨街道などの交通の要衝として栄え、中核工業団地の完成により企業も多数立地し、商工業都市として栄えてきた。一方、豊かな自然環境の中で、広大な森林から産出される東濃絵を代表として、優れた農産物を産出する農林業地域でもあり、地場産業の盛んな都市でもある。

現在、リニア中央新幹線の岐阜県駅と中部総合車両基地の整備が進められており、リニアを活かすまちづくりを進め「住み続けたい、住んでみたいと思うまち」を目指している。

②人口及び高齢化率の推移

年	人口	高齢化率	※石川町高齢化率
平成 29 年	79,656 人		34.4%
令和 2 年	77,479 人		36.9%
令和 6 年	73,750 人	32.8%	39.8%



7 調査概要

研修①

「ストーンミュージアム博石館」

(1) 応 対 者 (ストーンパーク㈱ 専務執行役員) 水野勝三 氏

(2) ストーンミュージアム博石館の概要

◆宝石探し体験 ストーンパーク

大人気の宝探し施設。

砂の中から素手で宝石を探し出す。



◆ピラミッドと地下迷路

博石館のシンボルで、日本最大級の
巨大ピラミッド。地下迷路体験と
スタンプラリーも楽しめる。



◆うんちく館

その名のとおり「古今東西のトイレの資料館」。恐竜のうんちの化石もある。

◆鉱山体験館

化石探しや原石探し、ジオード割りや
ジルコニア探しなど遊んで学べる施設。
ドキドキの宝探し体験ができる。



◆鉱物展示室

旧蛭川村から産出された鉱物を中心に、
世界各地の珍しい鉱物を展示。
被爆石やエベレストの石も展示。



◆石職人体験室

昔の石職人が使っていた道具を展示。
ふいご体験、石たたき体験、石臼体験、
オリジナル石板づくり体験などができる。



◆石のホール レストランバックカス

110年前の石柱を使って建てた神殿風レストラン。



◆ミュージアムショップ

宝石や鉱物など、石に関する商品を多数販売。お土産やプレゼントに好評なアクセサリー類も豊富に揃っている。



◆総石造りのトイレ オーバル

石をふんだんに使った2階建ての豪華なトイレ。1階が女性用、2階が男性用となっている。



◆博石門と天の川

蛭川産の巨大な石を積み上げて造った門柱。七夕ライトアップイベントでは、足元に埋め込んだ発行体が光り、まるで天の川の上を歩いているような幻想的な空間に。



◆喫茶MW(ムウ)

恵那峡の緑に映える大きな石柱が目印。ここでしか食べられないピラミッドカレーは、料理長手作りの逸品。



入館料

入館料金に含まれるもの：展示館、各種遊具のご利用

お一人様

大人（中学生以上）	小人（小学生）	幼児（小学生未満）
1200 円	600 円	無料

団体 20 名以上

大人（中学生以上）	小人（小学生）	幼児（小学生未満）
1100 円	550 円	無料

団体 100 名以上※幼児様団体、学校団体様はお問い合わせ下さい

大人（中学生以上）	小人（小学生）	幼児（小学生未満）
1000 円	500 円	無料

体験料金

記載の金額は、原則1名様ごとの料金です。

※「原石探し体験」は1000円で6名まで、「キュービックジルコニアさがし体験」は1000円で2名まで体験できます

種類		料金	内容
ピラミッド地下迷路 ポイントラリー（くじ引き付き）		1枚につき 300円	ピラミッド地下迷路の中で、4種類のイラストを見つけましょう！ 全部集めると、くじ引きで景品がもらえます！（ハズレ無し） ※制限時間はありません ※ポイントラリー無しの迷路体験は無料です。
宝石探し体験 ストーンパーク		小学生以上 800円 幼児（4歳以上）500円	人工のせせらぎの中から、約30種類の宝石・貴石を見つけましょう！ ※制限時間20分
鉱山体験	マーフィー博士の化石発掘研究所	1,000円 (1回1個)	石をハンマーで割って、化石を見つける体験です。
	原石探し体験	1,000円	砂の中から原石、カット石、化石を見つける体験です。 ※制限時間10分
	キュービックジルコニアさがし体験	1,000円	網を使用して砂の中からキュービックジルコニアを探し出す体験です。 ※制限時間：10分

	ジオード割り体験	大 = 1000円 小 = 500円	ジオード（晶洞）を割る体験です。
	銀探し体験 トレジャーハンティング 宝石釣り体験	4歳以上 500円	<p>【銀探し体験】水底の砂の中から銀を見つけ出す体験です。 ※制限時間 15分</p> <p>【トレジャーハンティング】金属探知機を使って、砂利の中に埋もれたお宝を探し出す体験です。 ※制限時間 10分</p> <p>【宝石釣り体験】袋に入った宝石を、竿で釣り上げます。 ※制限時間 10分</p>
	手作り体験		
	オリジナル指輪作り	500円	好きな色の宝石（小粒）を通してオリジナルの指輪をつくることができます。 受付場所：ミュージアムショップ
	ストーンペイント	1個 100円	小さな石に マーカーペンを使って文字や模様を描くことができます。 受付場所：ミュージアムショップ
	宝石画作り	500円	色とりどりの小さな宝石を紙に貼り付けて絵を描きます。 場所：ミュージアムショップ

	パワーストーンブレスレット作り	約 3,000 円 ～	<p>お好きなパワーストーンを選んでオリジナルのブレスレットを作れます。</p> <p>場所：ミュージアムショップ</p> <p>※石の種類や大きさによって値段が変わります。</p> <p>※体験を中止しております。</p>
	宝石万華鏡作り	1,000 円	<p>色とりどりの小さな宝石を使って万華鏡を作ります。</p> <p>場所：ミュージアムショップ</p> <p>※現在はキットを販売中。</p>
	ミニサンキャッチャー作り	1,000 円	<p>映画「天気の子」にも登場したサンキャッチャーを作ります。</p> <p>場所：ミュージアムショップ</p>
	ストーンパークアクセサリ作り	400 円～	<p>宝石探し体験で見つけた宝石でアクセサリを作れます。</p> <p>場所：ストーンパーク（ピラミッドの近く）</p> <p>「ストーンパーク」の宝石探し体験受付にて直接お申し込みください。</p>
はくせキングからの挑戦状	初級編	300 円	<p>6種類の冒険アイテムを探すゲームです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢（目安）：幼稚園児～小学校低学年 ・攻略時間：15分

	上級編	800 円	はくせキングからの最難関の挑戦状です。 みごと謎を解いて、大きな宝箱を開けよう！ ・対象年齢(目安) 小学校中高学年～大人 ・攻略時間：50 分
石職人体験館	オリジナルの石版を作ろう！	石版 1 枚につき 1800 円	石版に専用の機械で文字やイラストを掘って、オリジナルの表札やプレートを作ります。 ※体験を中止しております。

(3) ストーンミュージアム博石館のあゆみ

昭和 61 年	2 月	ピラミッド起工
	3 月	広島から被爆石が届く
	4 月	博石館完成・オープン式典
昭和 62 年	8 月	入場者 10 万人突破・音と光のファンタジー
	10 月	石の電話ボックス設置
昭和 63 年	3 月	ピラミッド完成
	6 月	入場者 20 万人突破
平成元年	3 月	野外ホール着工(5 月完成)
		ストーンメモリアル、ストーンガーデンフェスティバル開催
平成 2 年		一枚岩の巨大露天風呂、喫茶ムウ完成
		宗次郎 LIVE ピラミッド、幻想マツタケ宴会開催

(4) 調査のまとめ

☆施設管理

- ・民間（株式会社）経営として成り立つ事業展開がされている。
- ・地場の岩石活用からスタートした事業展開である。
- ・こどもが楽しめる空間と展示・体験事業は素晴らしい。
- ・産出鉱物の展示、鉱物採取体験、遊びの空間、絵画や文学、レストランなど、客が長い時間滞在できるよう工夫されている。
- ・素晴らしい鉱物の展示とともに、アミューズメントパークの要素が数多く見られた。
- ・民間の施設であり、入場者を増やすための工夫がみられた。（親子で楽しんでもらえる企画を増やしたと伺った。石積、ボルダリンク、迷路、磁気探査機、水路での鉱物探し等）
- ・民間なので経営を考えた話があった。
- ・広大な敷地、施設が点在しているが、管理が十分行き届いているようには思えず、限られた維持管理費用や従業員のなかで努力している姿が伺えた。
- ・所蔵鉱物、絵画等の価値は計り知れないが、そこを誇張することなく、遊び心が満載である。
- ・食事やショッピングまで楽しみ、経済の循環も意識している。
- ・固定費だけでも経営は厳しいものと推測するが、民間ならではの試みと感心。
- ・障がいのある方の施設利用については、移動や体験が限定されるのではないかと感じた。
- ・少ない従業員でも、民間企業らしい華やかさが見られた。また、施設管理が行き届いており、年間16万人が訪れる施設だけあると感じた。
- ・広大な敷地内は、ごみ一つなく、また芝生の草刈や施設内の整理整頓、掃除も行き届いて素晴らしかった。
- ・案内してくれた水野氏は「展示だけではダメです。」と言っていたように、人を呼ぶには、リピーターを増やすには、企画力である。季節ごとのイベントのほか、コンサート、落語会、美術展などを開催し、また各団体の利用に供している。
- ・入場者数は開館2年目に10万人、3年目に30万人、7年目に100万人突破をしている。
- ・維持管理経費や人件費、従業員数など、経営面の話を聞くことができなかった。
- ・那須の類似施設トレジャーストーンパークと比較して、利用料金が安い。施設としても、大幅な値上げはせずきいている。
- ・日本で一番石の仕入れをしているため、単価が安く仕入れることができ、全国の類似施設や、パワーストーンの業者へ卸している。
- ・博石館を現在運営する「ストーンパーク」社は、経営者であり芸術家。ひらめきを形にすることをモットーに、妥協することなく、お客様が喜ぶ仕掛けを展開している。
- ・商売というよりは「楽しんでもらおう」という心意気を感じられるが、地ビールの製造は2012年に停止するなど、時代の変化とともに経営方法の改善が必要。

☆イシニクルでも取り入れられると感じたこと

- ・ 鉱物・岩石グッズ（標本など）の販売。
- ・ こどもが楽しめる展示の工夫。
- ・ 体験コーナーの充実。
- ・ ゲーム感覚も取り入れながら、地元石材業の歴史と鉱物の魅力を伝えようとする姿勢。
- ・ イシニクルは資料館としての位置付け、いかに鉱物との融合が図られるかが課題と思われる。
- ・ 鉱物、鉱石との施設内での触れ合い、駐車場を含む施設外でも様々な形で演出の工夫はできるのではないかと感じた。限られた敷地、財源のなか、興味を引き立てる学習機会の提供など創意工夫が必要と考える。
- ・ 鉱石、ストーンの宝石等の販売は見ていただけでも楽しいので、今以上に品数を揃えるべきと思う。
- ・ 鉱物に関心を持ってもらうという意味では、宝石さがし体験は、夏場限定で特設することも可能かと感じた。屋外であれば、テントが必要。
- ・ 足つぼコーナーは、鉱物の硬度が実体験できおもしろいと思った。特に石英は半端なく硬いと実感。畳一枚程度でも十分可能だと思う。
- ・ 飲食スペースがあれば、より長い時間とどまってもらえる。チャペル跡の利活用が望まれる。
- ・ 宝石探し体験、喫茶ムウでのピラミッドカレーが人気、イシニクルでも、喫茶コーナーを設け軽食を提供し、待ち合わせ場所等に提供したらどうか。また子ども向けに、体験できるコーナーを常時実施したらどうか。
- ・ 立地や規模、民と公、鉱物専門と資料館との違いで難しいが、展示だけでなく、遊びながら学べたり、体験できるものが欲しい。砂の中から宝石を探すなどは楽しい。企画展室脇の軒下で出来ないか。
- ・ 他所に行くと、お土産を買うので、石を表現したお菓子や石を使った小物やアクセサリーなど、ミュージアムショップをもう少し充実しては。
- ・ 一人でも多く来館してもらおう工夫、異文化の催し（小さな個展やコンサートなど）も。開館したばかりなので、これから検討を（できる範囲で）。
- ・ 未就学児から楽しめる体験アクティビティの充実。
- ・ 石に限らず様々なワークショップの開催。
- ・ 貸室をさらに多様な目的で貸し出す。例、企業イベント、コスプレや撮影会などのフォトスポットなど、企画展や文化系に限定せず、様々なニーズに合わせて貸し出す。
- ・ SNS でのイベント PR。

☆調査を実施しての所感

- ・分かりやすい石川産出鉱物の活用の歴史。
- ・興味の招く展示、解りやすい展示の工夫。
- ・近くのレストランとの連携。
- ・イシニクル進入路の安全対策が課題。
- ・担当者の地元石材業、石への愛着を十二分に感じた。一方、石材の他地域からの買取、海外からの鉱物輸入販売事業展開など民間運営の厳しさも感じられた。
- ・創業者の石に対する姿勢、想いが強いことが伺え、鉱石の学術へのこだわりだけでなく、遊び心を持ち合わせた施設運営になっていることに感心した。
- ・多彩で多様な展示物や体験コーナー、1/10サイズのピラミッド、喫茶などは、39年間を経て、現在のようになっていたことが思いから伝わってきた。
- ・国道をはさんで敷地が左右に広がり、高低差があるという特異な施設となっていた。その分変化が楽しめ、広さを感じさせないという利点があると感じた。
- ・調査当日は生憎の大雨の中、ストーンパーク(株)専務執行役員である水野勝三さんの案内で施設内を視察したが、水野さんの説明で、ご本人はもとより社長の岩本哲臣さんの石に対する情熱がひしひしと伝わってきた。
これだけの大事業をなす人は、物凄いエネルギーの持ち主であり、常に夢と希望を持って毎日活動していると感じる。
このような、エネルギーをどの様にすれば、イシニクルにも今後の運営のために吹き込むことができるのか、当面の課題であると思う。
- ・頂いた資料の中に岩の本と言う名の冊子がある。その中の素描集9ページに「石に火をつけろ」のタイトルで、時期は書いてないが本町青年会議所の依頼で「街おこし」のテーマで講演によべられたことがあり、主催者側で私に石川を知ってもらおうと街の案内を買って出してくれた。
甲子園で有名なG校に鉱物のコレクションがあるということで、掛け合ってくれたが、校長が留守ということで見学を断られたうえに町営の鉱物博物館に出かけたら休館日だった。
岐阜からわざわざ石川のまちづくりのために来てくれたのだからと懸命に頼んでくれたが、取り合ってもらえなかった。
経験からまちづくりで難しいのは、外的な問題よりも、むしろ地元の人々の心の問題だ。と書かれている。
まさしくその通りだと考えさせられた。以前本町を訪れた際の大変な失礼があったにもかかわらず、石への情熱からか今回私達を温かく迎えてくれたことに深く感謝したい。
- ・蛭川村で石材店を経営する親子が、私費約1億5千万円を投じて「石の博物館」を昭和60年に開館してから、次々と施設を増設し、一大テーマパークとした。社長の情熱に多くの協力者、支援者が後押し、自治体も協力し、観光資源に貢献している。「金がないからみんなが燃えてくれた、厚い友情の結晶が博石館」「石の素材は冷たいが手を加えれば暖かい物に生まれ変わる、ここで石本来の姿を知ってもらい石の理念を作りたい。将来は研究所や宿泊施設も設け"石の郷" 'にしたい」と壮大な夢をもっている。 開館時、岩本哲臣社長 36歳

- ・案内してくれた水野氏が再三言っていたのは、「展示だけではダメです。」
- ・博石館は、施設も広く、体験アクティビティが充実しており、飲食スペースもあるため、一日中施設内で過ごすことができるのは魅力である。アクセスがいいとは言えないが、一年を通して様々なイベントを開催しているため、石が目的でない方も利用でき、写真スポットも多く、リピーターが多いのも特徴なので、様々な企画やイベントで、イシニクルを身近な存在として定着させたい。



研修②

「中津川市鉱物博物館」

- (1) 応 対 者 (中津川市議会議長) 島崎保人 氏
(中津川市鉱物博物館学芸員) 大林達生 氏
(中津川市文化スポーツ部次長) 吉村伸広 氏
(中津川市議会事務局次長) 大地由紀 氏

(2) 中津川市鉱物博物館の概要

岐阜県中津川市苗木を中心とする長野県木曾郡南木曾町から岐阜県恵那市北部にかけての一带は、「苗木 - 上松花崗岩」と呼ばれる花崗岩の分布域で、この花崗岩体から水晶・トパーズをはじめ多種多様な鉱物が産するため、鉱物の一大産地「苗木地方」として明治時代からよく知られてきた。

中津川市鉱物博物館は、苗木出身のアマチュア鉱物研究者・長島乙吉氏（1890～1969）と子息の地球化学者・長島弘三博士（1925～1985）から中津川市が寄贈を受けた鉱物標本「長島鉱物コレクション」を基礎に、平成10年に開館した市立の地質系自然史博物館である。

開館10周年の平成20年に登録博物館となった。

博物館の建物は、ペグマタイト（巨晶花崗岩）中の鉱物に見立てて造られており、中央のエントランスが水晶、向かって左の淡黄色の部分はカリ長石、向かって右のガラス部分は雲母や曹長石をかたどっている。



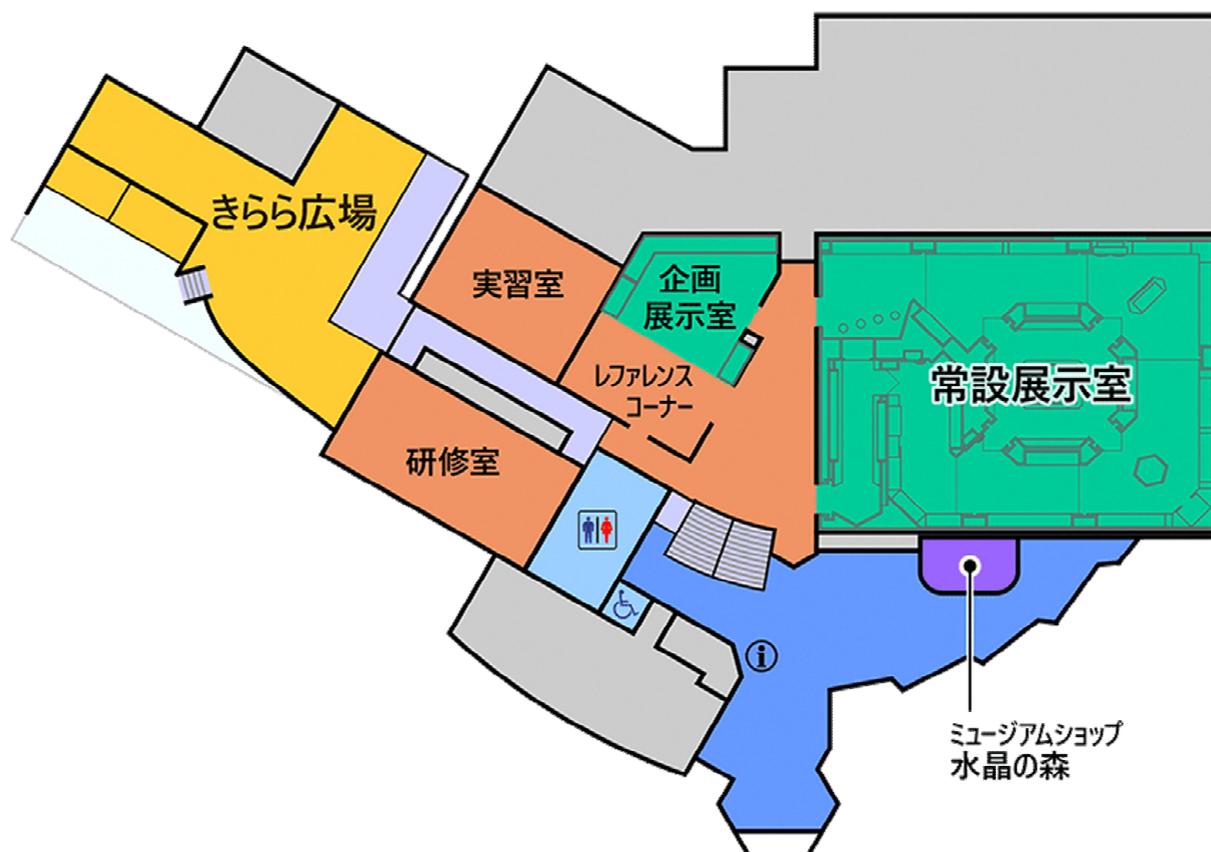
入館料

- ・ 330円
- ・ 団体 270円（10名以上）
- ・ 年間パスポート 1,650円市内6館(鉱物博物館、科学館、資料館等)共通

(3) 中津川市鉱物博物館のあゆみ

年 月	内 容
昭和39年 2月 12月	長島乙吉・弘三父子から鉱物コレクション寄贈の申し入れ 中津川市・蛭川村・岐阜県立中津高等学校に標本が送付
昭和40年 8月	「長島コレクション陳列所」(その後の「蛭川村長島鉱物陳列館」)を開設 長島乙吉氏、蛭川村名誉村民となる
昭和41年 12月	苗木公民館内に「長島鉱物コレクション展示室」を設置
昭和42年 4月	長島乙吉氏を中津川市教育文化功績により表彰(市制15周年記念)
昭和44年 12月	長島乙吉氏逝去
昭和53年 2月	苗木「夜明けの森」管理事務所内に「鉱物展示コーナー」を開設
昭和60年 1月	長島弘三博士逝去
平成2年 3月	第3次総合計画に「鉱物資料館建設」を位置づけ(平成3年度着手、 平成5年度完成予定)
平成4年 8月	市教育委員会文化課で長島鉱物コレクション標本調査を開始
平成5年 3月	第3次総合計画2期実施計画に建設事業を策定(平成7年度完成予定)
平成6年 5月	津川市鉱物資料館建設準備委員会が発足
10月	「中津川市苗木鉱物博物館(仮称)建設基本構想報告書」がまとまる
平成7年 4月	鉱物博物館(仮称)研究委員会が発足
5月	「中津川フィールドミュージアム鉱物博物館(仮称)基本計画書」がまとまる
7月	博物館建設事業が自治省「平成7年度ふるさとづくり事業」に指定
平成8年 3月	岐阜県立中津高等学校から長島鉱物コレクション寄託の申し入れ 新築工事実施設計書(建築・展示)がまとまる
7月	博物館建設工事着工
平成9年 2月	岐阜県立中津高等学校同窓会から長島鉱物コレクションが寄託
7月	博物館の名称を「夜明けの森きらめきパーク 中津川市鉱物博物館」に決定 (公募による)
9月	姉妹都市のブラジル・レジストロ市、同姉妹友好都市協会から鉱物標本が寄贈
平成10年 4月	開館式典 無料公開
5月	開 館
12月	蛭川村と長島鉱物コレクション寄託について協議開始
平成14年 6月	蛭川村から長島鉱物コレクション寄託の申し入れ
8月	蛭川村から長島鉱物コレクションが寄託される (2005年2月:市町村合併により博物館に移管)
平成16年 3月	中津川ライオンズクラブから世界最大級の単結晶アマゾナイトが寄贈
平成20年 5月	博物館法第2条に規定する博物館(登録博物館)として登録
平成28年 5月	名古屋大学博物館と相互協力に関する協定を締結

(4) 施設概要



常設展示室

洞窟を模した導入部のトンネルと7つのテーマからなり、苗木地方の鉱物や「長島鉱物コレクション」をはじめ、さまざまな岩石・鉱物とともに、その性質や生活との関わり、地域の地質などについて展示している。



企画展示室

鉱物博物館の企画展だけでなく、皆さんの自然に関わるコレクション・写真などを公開していただける『私の展示室』など、さまざまな展示を開催。



レファレンスコーナー

地球科学・自然関連の図書やほかの博物館の情報（印刷物）を自由に閲覧することができ、閲覧用の机でゆっくりと調べものをするができる。書籍だけでなく、北関東から近畿までの地形図（2万5千分の1）も常備してある。観察用の鉱物標本・岩石標本もあり、受付に申し出れば手にとって観察することができる。



研修室・実習室

研修室は最大80名を収容でき、実習室は最大40名までの実習ができる。実体顕微鏡や偏光顕微鏡を使って、岩石や鉱物についてより深く学ぶことができる。博物館の教室・講座も通常この実習室で行なっている。



きらら広場・水晶広場

鉱物と親しむプレザン。「かんかん石」とも呼ばれるサヌカイトでつくった「石の楽器」や、長石の双晶の結晶模型を組み立てる「結晶の積み木」がある。屋根があるので、雨天でも遊んだり休憩したりでき、雨天時のストーンハンティングはここで行う。



ミュージアムショップ「水晶の森」

各種の鉱物標本をはじめ、ルーペや整理用の標本箱、書籍などを販売している。展示解説書や企画展の図録など、博物館の出版物も購入できる。



(5) 博物館等協議会

博物館法第23条及び中津川市教育委員会附属機関の設置等に関する条例第2条の規定に基づいて設置された諮問機関。

中津川市の博物館等5館の事業・運営について、専門的立場や来館者の観点を踏まえて意見・提言することをその役割としている。

令和6年度第1回協議会

日時

2024年8月21日（水曜日） 15:00 から

会場

中津川市鉱物博物館

会議次第

1. 開会
2. 協議会委員任命・委嘱
 - 委員任命書・委嘱書交付
 - 委員自己紹介
3. 教育長あいさつ
4. 博物館等協議会について
5. 協議会役員選出
 - 会長
 - 副会長
6. 協議・報告事項
 1. 令和6年度事業について
 2. 鉱物博物館第30回企画展「地形・地質からみる苗木城」[展示解説]
 3. 質疑
7. その他
8. 協議会会長あいさつ
9. 閉会



・中津川市子ども科学館

・中津川市苗木遠山資料館

・中津川市中山道歴史資料館

・中津川市東山魁夷心の旅路館

(6) 名古屋大学博物館との協定

中津川市鉱物博物館と名古屋大学博物館との相互協力に関する協定

中津川市鉱物博物館は平成28年5月に、名古屋大学博物館と地球科学など自然科学分野における教育・研究活動について連携・協力していくことに合意し、相互協力に関する協定を締結した。

青少年をはじめとする人々のサイエンスリテラシー（科学的素養）についての更なる理解増進と、人材の育成を図ることを目的とし、両館それぞれが有する人的資源、研究成果および展示等を活用して、次のような連携・協力を行っていく。

- ▼ 講演会・講座等の実施協力（講師等の相互派遣など）
- ▼ 展示に関する協力（収蔵資料の相互活用など）
- ▼ 研究活動成果の広報に関する協力
 - ▼ 職員の研修に関する協力
 - ▼ 学生教育に関する協力



(7) 博物館ボランティア制度

中津川市の博物館では、博物館で活動していただけるボランティア（中津川市文化スポーツ施設サポーター）を随時募集しています。

ボランティアとして活動していただくと、活動内容に応じてポイントも貯まり、入館料や施設使用料等に使うことができます。

おもな活動内容

イベント補助、フィールド整備作業、展示解説

文化スポーツ施設 サポーターポイント制度

中津川市内の文化スポーツ施設において、市民のみなさんに各種事業や企画運営に参画していただくことを目的に、各施設で定めたボランティア活動（作業・事業・企画運営など）にポイントを付与し、貯まったポイントを施設使用料等の減免に利用していただく制度です。



8 ポイントカード



40 ポイントカード

制度の流れ

1. サポーター登録（個人または団体）↓
2. サポーターポイントカード発行↓
3. 文化スポーツ施設でのボランティア活動↓
4. ポイントの押印↓
5. ポイント満了カードの使用

文化スポーツ施設利用時に提出すると

- 8 ポイントカード 200 円
- 40 ポイントカード 1,000 円 の割引になります。

対象となる文化スポーツ施設

- ・公民館
- ・図書館・図書室（ポイント付与のみ）
- ・文化施設
 - 東美濃ふれあいセンター
 - 中津川文化会館
 - 福岡ふれあい文化センター
 - アートピア付知交芸プラザ
- ・スポーツ施設 博物館等、馬籠文化交流施設
- ・芝居小屋（常盤座、明治座）
- ・学校開放施設（ポイント使用のみ）

中津川市博物館年報第24号(2022年) 抜粋

5 利用者状況

1. 利用者数：令和4年度 ※比率・一日平均は、小数以下を四捨五入した値のため、合計が一致しない場合がある

■苗木遠山史料館（令和4年4月1日～令和5年3月31日）（単位：人）

月	開館日数	有料入館者					無料入館者								館外利用・出前事業				合計	比率	一日平均
		個人	割引	団体	パスポート	小計	小中学生	幼児	免除	招待券	優待証 友の会	無料ゾーン		小計	一般	小中学生	幼児	小計			
4月	26	425	487	49	0	961	55	26	49	9	11	495	51	696	0	0	0	0	1,657	8%	64
5月	26	562	735	39	1	1,337	186	44	349	15	13	465	63	1,135	0	0	0	0	2,472	12%	95
6月	26	251	570	128	1	950	15	4	53	0	17	379	27	495	0	0	0	0	1,445	7%	56
7月	27	235	363	101	0	699	38	15	69	0	16	281	28	447	0	0	0	0	1,146	6%	42
8月	26	80	95	15	1	191	284	70	1,454	0	0	88	8	1,904	30	0	0	30	2,125	10%	82
9月	26	306	536	0	0	842	192	11	93	0	14	453	43	806	60	0	0	60	1,708	8%	66
10月	26	541	987	74	2	1,604	75	31	114	12	18	1,443	88	1,781	0	0	0	0	3,385	17%	130
11月	26	503	969	96	1	1,569	85	18	441	7	16	1,045	19	1,631	0	0	0	0	3,200	16%	123
12月	21	126	260	19	0	405	8	2	26	0	11	248	3	298	0	0	0	0	703	3%	33
1月	22	103	201	0	0	304	21	11	51	0	10	174	14	281	0	0	0	0	585	3%	27
2月	24	141	193	10	2	346	13	3	61	0	14	188	13	292	0	0	0	0	638	3%	27
3月	27	282	406	51	0	739	47	49	90	0	13	405	41	645	0	0	0	0	1,384	7%	51
合計	303	3,555	5,802	582	8	9,947	1,019	284	2,850	43	153	5,664	398	10,411	90	0	0	90	20,448	100%	67
比率		17%	28%	3%	0%	49%	5%	1%	14%	0%	1%	28%	2%	51%	0%	0%	0%	0%	100%		
一日平均		12	19	2	0	33	3	1	9	0	1	19	1	34	0	0	0	0	67		

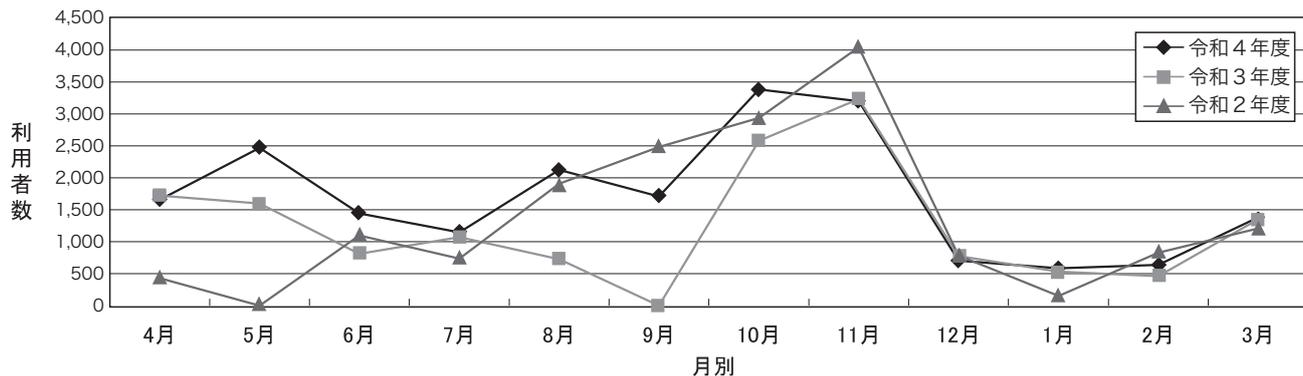
開館後の累計（平成2年11月3日からの累計）

合計	9,817	113,898	44,213	35,238	79,789	273,138	35,272	3,993	69,818	11,218	10,599	97,424	7,058	235,382	2,507	418	0	2,925	511,445
比率	22%	9%	7%	16%	53%	7%	1%	14%	2%	2%	19%	1%	46%	0%	0%	0%	1%	100%	
一日平均	12	5	4	8	28	4	0	7	1	1	10	1	24	0	0	0	0	52	

※平成18年度からの小中学生無料化に伴い平成17年度以前の有料入館者数を含む

利用者の月間推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	1,657	2,472	1,445	1,146	2,125	1,708	3,385	3,200	703	585	638	1,384	20,448
令和3年度	1,725	1,599	810	1,071	726	0	2,583	3,235	774	531	464	1,353	14,871
令和2年度	429	0	1,101	737	1,910	2,483	2,939	4,046	783	153	830	1,210	16,621



■子ども科学館（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：人）

月	開館日数	有料入館者					無料入館者							館外利用・出前事業				合計	比率	一日平均	
		個人	割引	団体	パスポート	小計	小中学生	幼児	免除	招待券	優待証 友の会	無料ゾーン		小計	一般	小中学生	幼児				小計
		一般		小中学生																	
4月	26	86	335	21	32	474	398	347	39	0	0	35	0	819	0	0	0	0	1,293	7%	50
5月	26	138	315	13	37	503	439	473	184	0	0	46	0	1,142	0	0	0	0	1,645	9%	63
6月	26	80	201	6	37	324	218	281	40	0	0	50	0	589	0	0	0	0	913	5%	35
7月	27	123	395	14	54	586	417	403	107	0	0	68	1	996	5	10	0	15	1,597	9%	59
8月	29	32	149	12	9	202	1,091	798	1,428	0	0	41	0	3,358	0	0	0	0	3,560	19%	123
9月	26	117	405	0	30	552	493	480	115	0	0	45	1	1,134	0	0	0	0	1,686	9%	65
10月	26	108	310	7	29	454	477	443	107	0	0	55	0	1,082	0	0	0	0	1,536	8%	59
11月	26	98	263	98	25	484	598	351	254	0	0	77	4	1,284	0	0	0	0	1,768	10%	68
12月	21	39	133	0	20	192	234	153	75	0	0	19	0	481	0	0	0	0	673	4%	32
1月	22	68	206	6	28	308	243	237	43	0	0	32	0	555	0	0	0	0	863	5%	39
2月	24	97	260	10	28	395	283	327	82	0	0	25	1	718	0	0	0	0	1,113	6%	46
3月	27	147	439	17	31	634	543	526	105	0	0	42	2	1,218	0	0	0	0	1,852	10%	69
合計	306	1,133	3,411	204	360	5,108	5,434	4,819	2,579	0	0	535	9	13,376	5	10	0	15	18,499	100%	60
比率		6%	18%	1%	2%	28%	29%	26%	14%	0%	0%	3%	0%	72%	0%	0%	0%	0%	100%		
一日平均		4	11	1	1	17	18	16	8	0	0	2	0	44	0	0	0	0	60		

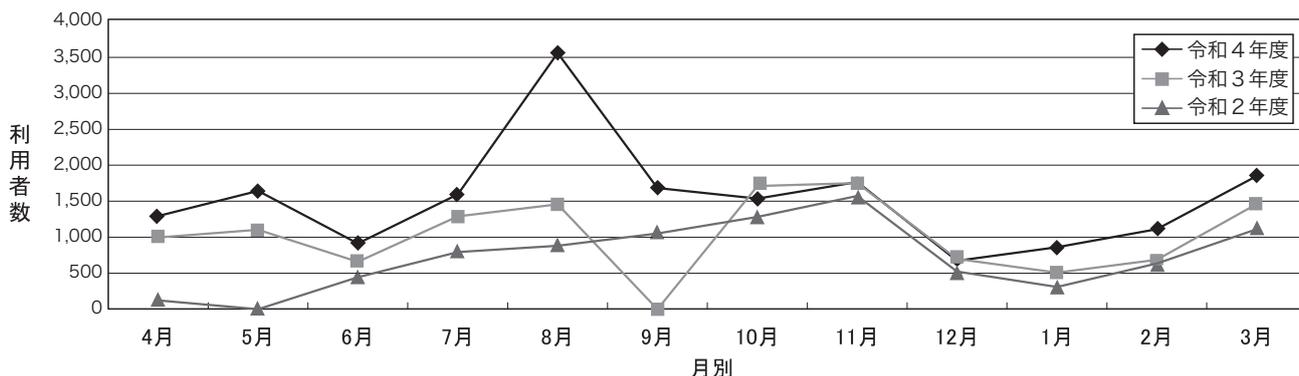
開館後の累計（平成4年5月8日からの累計）

合計	9,465	136,892	18,437	9,367	3,708	168,404	262,682	141,743	44,916	208	0	3,727	115	453,391	260	409	4	673	622,468
比率	22%	3%	2%	1%	27%	42%	23%	7%	0%	0%	1%	0%	73%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
一日平均	14	2	1	0	18	28	15	5	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	66

※平成18年度からの小中学生無料化に伴い平成17年度以前の有料入館者数を含む

利用者の月間推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	1,293	1,645	913	1,597	3,560	1,686	1,536	1,768	673	863	1,113	1,852	18,499
令和3年度	998	1,102	658	1,290	1,456	0	1,711	1,753	697	509	686	1,461	12,321
令和2年度	122	0	445	795	881	1,054	1,284	1,574	524	309	634	1,111	8,733



■東山魁夷心の旅路館（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：人）

月	開館日数	有料入館者					無料入館者								館外利用・出前事業				合計	比率	一日平均
		個人	割引	団体	パスポート	小計	小中学生	幼児	免除	招待券	優待証 友の会	無料ゾーン		小計	一般	小中学生	幼児	小計			
4月	26	93	175	0	0	268	4	0	6	0	0	4	0	14	0	0	0	0	282	5%	11
5月	27	137	277	0	0	414	23	8	134	0	0	9	0	174	0	0	0	0	588	11%	22
6月	21	59	149	0	0	208	56	2	12	0	0	1	0	71	0	0	0	0	279	5%	13
7月	27	58	146	0	1	205	59	5	102	0	0	10	0	176	0	0	0	0	381	7%	14
8月	28	32	56	0	0	88	165	61	1,373	0	0	4	0	1,603	0	0	0	0	1,691	32%	60
9月	22	127	203	0	0	330	8	4	13	0	0	8	0	33	0	0	0	0	363	7%	17
10月	27	143	287	0	1	431	15	5	28	0	0	12	0	60	0	0	0	0	491	9%	18
11月	25	96	191	0	1	288	11	10	213	0	0	18	0	252	0	0	0	0	540	10%	22
12月	16	22	54	0	1	77	74	0	15	0	0	15	0	104	0	0	0	0	181	3%	11
1月	23	26	56	0	4	86	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	89	2%	4
2月	24	34	59	0	0	93	4	0	7	0	0	1	0	12	0	0	0	0	105	2%	4
3月	24	68	142	0	2	212	6	4	14	0	0	11	0	35	0	0	0	0	247	5%	10
合計	290	895	1,795	0	10	2,700	425	99	1,920	0	0	93	0	2,537	0	0	0	0	5,237	100%	18
比率		17%	34%	0%	0%	52%	8%	2%	37%	0%	0%	2%	0%	48%	0%	0%	0%	0%	100%		
一日平均		3	6	0	0	9	1	0	7	0	0	0	0	9	0	0	0	0	18		

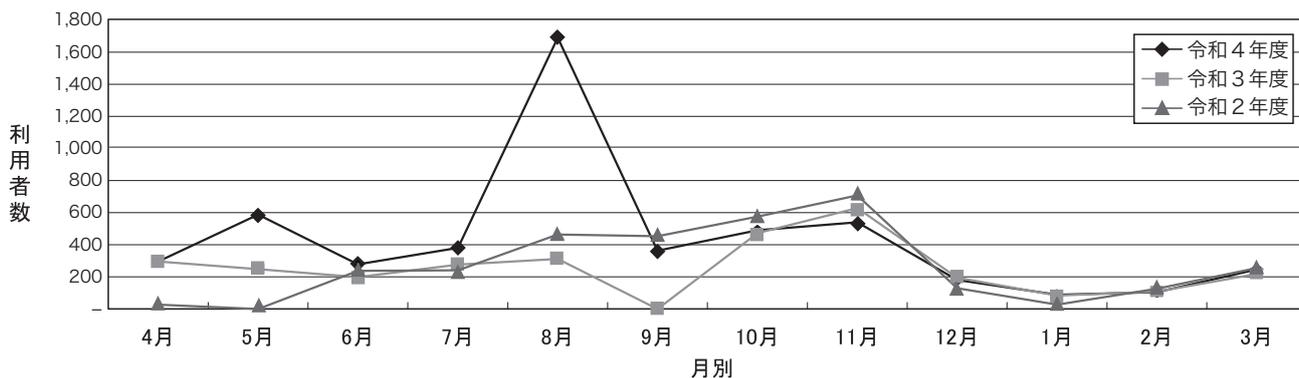
開館後の累計（平成7年8月1日からの累計）

合計	8,606	193,253	14,387	10,274	856	218,770	11,044	1,480	24,733	298	20	6,490	214	44,279	465	1,427	0	1,892	264,941
比率	73%	5%	4%	0%	83%	4%	1%	9%	0%	0%	0%	2%	0%	17%	0%	1%	0%	1%	100%
一日平均	22	2	1	0	25	1	0	3	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	31

※平成18年度からの小中学生無料化に伴い平成17年度以前の有料入館者数を含む

利用者の月間推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	282	588	279	381	1691	363	491	540	181	89	105	247	5,252
令和3年度	297	249	199	277	313	0	473	629	196	83	108	219	3,043
令和2年度	28	0	238	241	464	454	576	708	129	27	126	255	3,246



■ 鉱物博物館（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：人）

月	開館日数	有料入館者					無料入館者								館外利用・出前事業				合計	比率	一日平均
		個人	割引	団体	パスポート	小計	小中学生	幼児	免除	招待券	優待証 友の会	無料ゾーン		小計	一般	小中学生	幼児	小計			
												一般	小中学生								
4月	26	177	379	15	3	574	230	98	50	11	11	28	4	432	0	0	0	0	1,006	7%	39
5月	26	262	621	39	8	930	505	194	312	29	17	17	2	1,076	0	0	0	0	2,006	13%	77
6月	26	124	240	17	4	385	148	78	46	0	27	26	1	326	9	0	0	9	720	5%	28
7月	27	152	370	0	11	533	315	146	164	6	13	23	1	668	0	0	0	0	1,201	8%	44
8月	26	64	147	0	1	212	906	398	1,671	3	9	15	0	3,002	0	0	0	0	3,214	22%	124
9月	26	203	393	14	4	614	286	138	88	0	15	24	0	551	43	1	0	44	1,209	8%	47
10月	26	191	468	4	7	670	328	198	86	1	16	27	2	658	0	0	0	0	1,328	9%	51
11月	26	158	323	39	2	522	401	210	404	3	25	28	4	1,075	0	0	0	0	1,597	11%	61
12月	21	49	119	24	5	197	93	51	74	0	23	12	7	260	8	0	0	8	465	3%	22
1月	22	81	146	6	3	236	102	53	18	0	9	8	2	192	0	0	0	0	428	3%	19
2月	24	74	178	0	7	259	102	66	48	0	15	31	11	273	0	190	0	190	722	5%	30
3月	27	134	327	0	9	470	195	190	72	11	26	40	5	539	6	5	0	11	1,020	7%	38
合計	303	1,669	3,711	158	64	5,602	3,611	1,820	3,033	64	206	279	39	9,052	66	196	0	262	14,916	100%	49
比率		11%	25%	1%	0%	38%	24%	12%	20%	0%	1%	2%	0%	61%	0%	1%	0%	2%	100%		
一日平均		6	12	1	0	18	12	6	10	0	1	1	0	30	0	1	0	1	49		

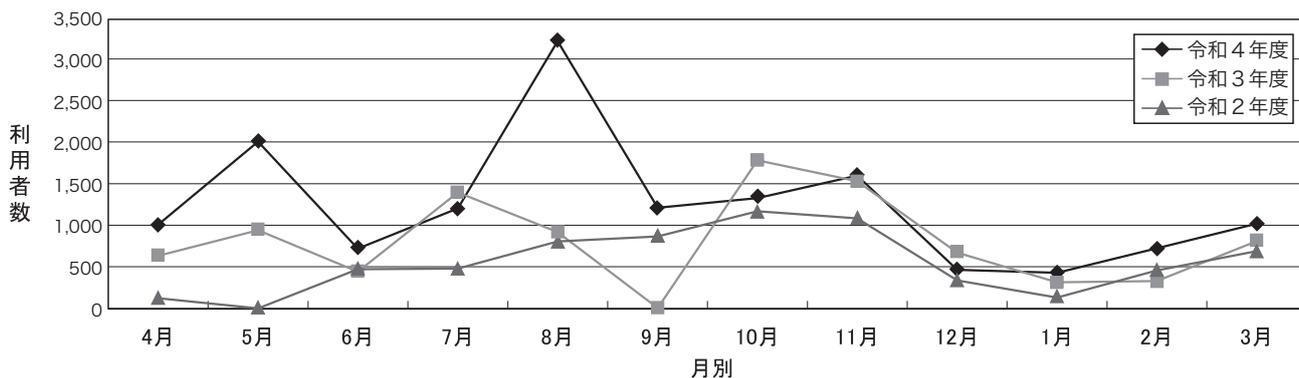
開館後の累計（平成10年4月29日無料公開からの累計）

合計	7,388	78,784	17,007	11,938	5,805	113,534	130,797	33,385	52,635	1,771	3,740	19,251	3,817	245,396	1,685	1,091	89	2,865	361,795	
比率	22%	5%	3%	2%	31%	36%	9%	15%	0%	1%	5%	1%	68%	0%	0%	0%	1%	100%		
一日平均	11	2	2	1	15	18	5	7	0	1	3	1	33	0	0	0	0	49		

※平成18年度からの小中学生無料化に伴い平成17年度以前の有料入館者数を含む

利用者の月間推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	1,006	2,006	720	1,201	3,214	1,209	1,328	1,597	465	428	722	1,020	14,916
令和3年度	631	940	442	1,393	918	4	1,781	1,529	671	312	328	809	9,758
令和2年度	122	0	472	479	806	866	1,168	1,081	337	131	457	687	6,606



■中山道歴史資料館（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：人）

月	開館日数	有料入館者					無料入館者								館外利用・出前事業				合計	比率	一日平均
		個人	割引	団体	パスポート	小計	小中学生	幼児	免除	招待券	優待証 友の会	無料ゾーン		小計	一般	小中学生	幼児	小計			
		一般		小中学生																	
4月	26	49	59	20	1	129	6	5	88	4	70	564	23	760	0	0	0	0	889	6%	34
5月	26	77	90	0	0	167	32	26	177	0	66	684	170	1,155	0	0	0	0	1,322	9%	51
6月	26	58	113	0	0	171	15	12	151	0	67	400	89	734	0	0	0	0	905	6%	35
7月	27	37	55	0	1	93	10	4	91	0	70	466	131	772	0	0	0	0	865	6%	32
8月	26	25	12	0	0	37	83	38	391	4	60	471	110	1,157	0	0	0	0	1,194	8%	46
9月	26	78	96	39	0	213	12	2	136	0	69	709	143	1,071	0	0	0	0	1,284	8%	49
10月	26	115	124	10	1	250	25	3	230	6	47	1,026	372	1,709	0	0	0	0	1,959	13%	75
11月	26	89	116	22	0	227	85	115	702	2	67	1,323	277	2,571	0	0	0	0	2,798	18%	108
12月	21	40	33	11	0	84	12	72	103	4	53	528	130	902	0	0	0	0	986	6%	47
1月	22	31	27	0	0	58	7	75	125	2	58	653	201	1,121	0	0	0	0	1,179	8%	54
2月	24	31	28	0	0	59	6	86	88	0	64	418	66	728	0	0	0	0	787	5%	33
3月	27	55	67	21	0	143	114	86	92	0	56	545	188	1,081	0	0	0	0	1,224	8%	45
合計	303	685	820	123	3	1,631	407	524	2,374	22	747	7,787	1,900	13,761	0	0	0	0	15,392	100%	51
比率		4%	5%	1%	0%	11%	3%	3%	15%	0%	5%	51%	12%	89%	0%	0%	0%	0%	100%		
一日平均		2	3	0	0	5	1	2	8	0	2	26	6	45	0	0	0	0	51		

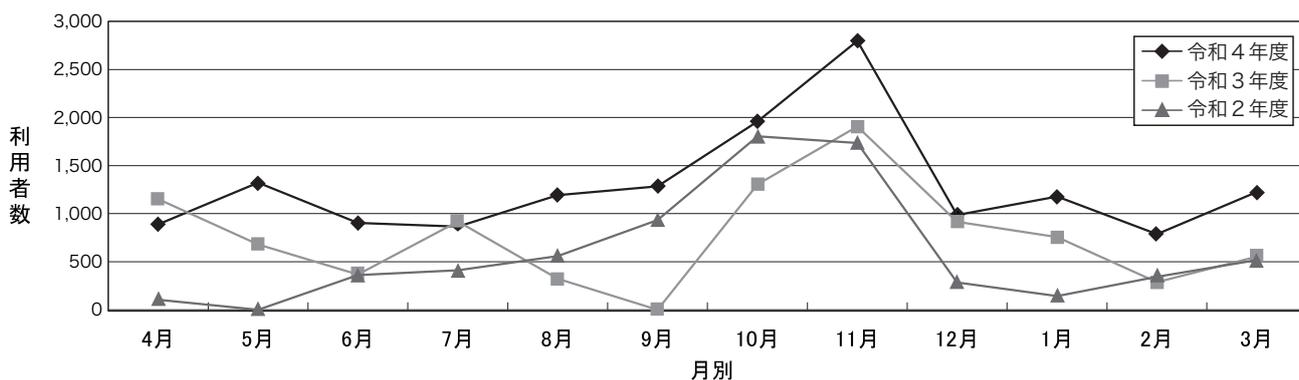
開館後の累計（平成16年4月11日からの累計）

合計	5,637	20,850	5,404	7,388	1,432	35,074	11,172	1,604	48,373	136	10,493	124,252	15,023	211,053	16,131	6,392	98	22,621	268,748
比率		8%	2%	3%	1%	13%	4%	1%	18%	0%	4%	46%	6%	79%	6%	2%	0%	8%	100%
一日平均		4	1	1	0	6	2	0	9	0	2	22	3	37	3	1	0	4	48

※平成18年度からの小中学生無料化に伴い平成17年度以前の有料入館者数を含む

利用者の月間推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	889	1,322	905	865	1,194	1,284	1,959	2,798	986	1,179	787	1,224	15,392
令和3年度	1,153	680	368	918	324	0	1,306	1,907	916	755	288	552	9,167
令和2年度	105	0	361	411	560	933	1,805	1,736	284	143	342	518	7,198



4 鉱物博物館事業 ■ ■ ■



1. 展示事業

長島鉱物コレクションや苗木地方の鉱物等を常時公開する常設展示と、自然に関する内容をテーマに期間を定めて開催する企画展示がある。

1 常設展示

(1)常設展示

常設展示は、日本三大ペグマタイト鉱物産地のひとつである苗木地方の産出鉱物や地域地質の紹介、当館の中核標本である長島鉱物コレクションの展示紹介を柱とする7つのテーマと導入部の8ブロックから構成している。

導 入：鉱物の世界へようこそ テーマ1：苗木地方の鉱物と花崗岩
テーマ2：石の姿 テーマ3：中津川市の地質
テーマ4：鉱物の世界 テーマ5：鉱物に魅せられた人々
テーマ6：暮らしの中の岩石・鉱物 テーマ7：地球から宇宙へ
希望する団体や個人には、職員による展示解説を行った。

(2)展示替え

JAXA宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトから提供を受け、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウから持ち帰ったサンプルのレプリカをテーマ7に展示。

「はやぶさの日」（6月13日）に合わせた6月12日(日)～9月4日(日)の展示後、11月15日(火)から常設展示。

(3)きらら広場

「きらら広場」は、鉱物と親しむプレースペースで、ストーンハンティング（水晶さがし）、石の楽器、結晶模型の積木などで構成する体験空間としている。

2 企画展示

本年度は自主事業2回、一般参加企画（私の展示室）1回の合計3回開催した。開催日数は計191日（対年間開館日数比率は63%）、観覧者総数は11,687人であった。

(1)自主事業

● 第27回企画展 まちで出会える世界の石

期 間：令和4年7月23日(土)～12月18日(日) 観覧者数：8,187人
内 容：石材として使用されている世界各地の石を展示し、身近な場所での使用例とともに紹介。

展示資料：標本82点

出版物：企画展解説書

関連の催し

● 記念講演会「街の中で見つかるすごい石～都会は石材博物館」

日 時：11月13日(日) 13時30分～15時

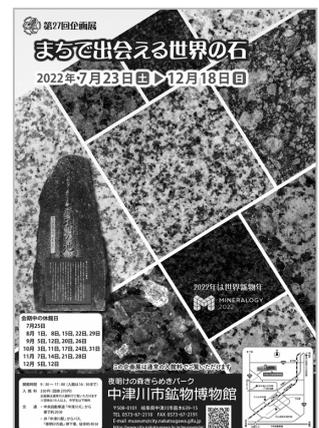
講 師：西本昌司（愛知大学教授）

● 第28回企画展 長島鉱物コレクション展—蛭川郷土館標本受入20年

期 間：令和5年3月18日(土)～6月4日(日) 観覧者数：546人（令和4年度のみ）

内 容：長島鉱物コレクションのうち、旧蛭川村が蛭川郷土館「長島鉱物コレクション陳列所」で展示していた標本を、平成14年に鉱物博物館が受け入れてから20年となるのを機に、常時展示していない旧蛭川村標本を中心に展示・紹介。

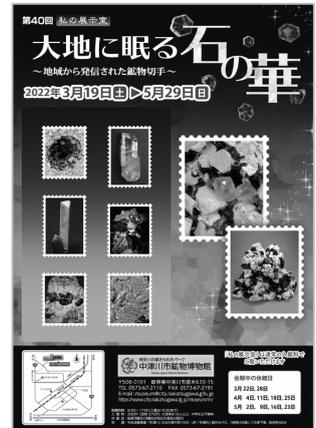
展示資料：標本約130点、蛭川郷土館「長島鉱物コレクション陳列所」の銘板



(2)一般参加：私の展示室

個人・団体が収集した資料や研究成果などを博物館と共催で展示する企画展で、参加者が自ら企画・展示し、観覧者との交流の場をめざすものである。当館においては、自然に関するものを共通テーマとして、本年度は1回開催した。

- 第40回私の展示室 大地に眠る石の華 ～地域から発信された鉱物切手～
期 間：令和4年3月19日(土)～5月29日(日) 観覧者数：3,498人
内 容：令和3年12月に発行された鉱物をテーマにした切手シート「苗木・蛭川の大地に眠る石の華」の図柄に採用された標本など、苗木地方産の鉱物を中心に展示。
展示資料：標本66点（うち苗木地方産56点）、鉱物をテーマにした切手シート4点
出版物：展示案内リーフレット 4p.



2. 普及事業

1 学習支援

(1)教室等：教室・ワークショップ・講演会・学習相談

自然に対する豊かな感性を育み、科学的探求心を醸成することを目的として、各種の普及事業を開催した。飛沫防止用ビニールシートの設置、参加人数の制限等の感染症対策をとり、教室は22回開催324人、ワークショップは10回開催434人が参加した。

①教室

- 夜明けの森こんもり山プロジェクト（4回開催）

実施日：5月28日(土)・8月6日(土)・10月29日(土)・1月21日(土) 9時30分～12時

登録者：16人（小学生11、一般5）

参加者：延べ56人（幼児3、小学生35、一般18）

費用：一人1回500円

講師：赤尾友和、瀬瀬正紀、小林英子、大嶋直子 他

内 容：「夜明けの森こんもり山プロジェクト」は、自然のしくみや森の楽しみ方を楽しく遊びながら学ぼうという年4回の教室。夜明けの森をフィールドとして活動を行う。本年度は「森でてんこもり」を年間テーマとして活動を行った。

第1回「森のミステリー」は、なぞ解きをしながら森を散策した。

第2回「森の沢のぼり」は、小川で石さがしをした。(新型コロナウイルス感染状況等を考慮し予定変更)

第3回「森のファミリー」は、木の枝で秘密基地みたいなかくれがをつくった。

第4回「森のぬくもり」は、木こりのロウソク（スウェーデントーチ）であたたまった。



夜明けの森こんもり山プロジェクト

- はじめのいっぽ～森の子育て・親子自然楽習～（6回開催）

実施日：6月9日(木)・7月14日(木)・9月8日(木)・10月13日(木)・11月10日(木)・12月8日(木) 10時～12時

登録者：21人（乳幼児10、一般11）

参加者：延べ82人（乳幼児40、小学生6、一般36）

費用：一組1回200円

講師：原 令子、柳谷恵子、小林英子、大嶋直子、三浦美奈子

内 容：乳幼児の親子が、ネイチャーゲーム・わらべうた・絵本・ものづくりなどを通して、ゆったり遊びながら自然に親しむ年6回のプログラム。本年度の年間テーマは「絵本は森のいりぐち」。



はじめのいっぽ～森の子育て・親子自然楽習～

●古代人のアクセサリ「まが玉」をつくろう（2回開催）

実施日：5月22日(日)・2月19日(日) 10時～12時

参加者：37人（幼児4、小学生16、一般17）

費用：500円

講師：館職員（大林）

内容：滑石を磨いて、オリジナルの「まが玉」を作った。

●石で電波をつかまえる—鉱石ラジオづくり

実施日：7月18日(月・祝) 9時30分～12時

参加者：15人（幼児2、小学生5、中学生1、一般7）

費用：900円

講師：館職員（安藤）

内容：鉱石ラジオのしくみを学んで、ゲルマニウムラジオを作った。



石で電波をつかまえる—鉱石ラジオづくり

●ちっちゃな鉱物を標本にしよう（2回開催）

実施日：7月31日(日)・3月26日(日) 10時～12時

参加者：22人（小学生11、中学生1、一般10）

費用：400円

講師：館職員（大林）

内容：鉱物について学びながら、マイクロマウントと呼ばれる鉱物標本を作った。

●夜の森にいらっしやい！ナイトハイクツアー

実施日：8月11日(木・祝) 19時30分～21時

参加者：8人（幼児1、小学生3、一般4）

費用：200円

講師：赤尾友和

内容：ペットボトルを利用して作ったランタンを持って、夜の森を散策した。

●森の木の実でリースづくり

実施日：11月27日(日) 10時～12時

参加者：10人（幼児1、小学生4、一般5）

費用：500円

講師：館職員（宮下）

内容：植物のツルや木の実などを利用したリースを作った。

●石のキャンドルづくり

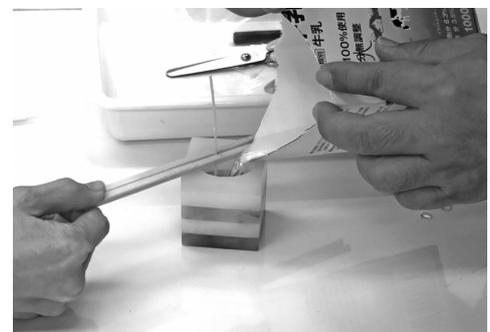
実施日：12月11日(日) 9時30分～12時

参加者：10人（小学生4、中学生1、一般5）

費用：1,000円

講師：館職員（大林）

内容：滑石を組み合わせる容器を作り、ろうを流し込んでキャンドルを作った。



石のキャンドルづくり

●星空観察会—ふたご座流星群と冬の星座

（鉱物博物館・子ども科学館共同企画）

実施日：12月14日(水) 18時30分～20時30分

参加者：34人（幼児3、小学生10、中学生1、一般20）

費用：無料

講師：中津川市教員・教員OB

内容：館駐車場で、冬の星座とこの頃極大となるふたご座流星群を観察した。

●ミニ門松づくり（2回開催）

実施日：12月24日(土) 9時30分～12時・13時30分～16時

参加者：20人（幼児2、小学生7、一般11）

費用：1,500円

講師：館職員（安藤）、鉱物博物館友の会

内容：竹や藁、松、葉ボタンなどを使って門松を作った。

●はじめのいっぽ・には・散歩

実施日：3月5日(日) 10時～12時

参加者：30人（幼児13、小学生3、一般14）

費用：一組300円

講師：原令子 他

内容：親子で自然を楽しみながら、早春の夜明けの森を散歩した。

②ワークショップ

●石割体験：友の会共催

実施日：5月15日(日)・8月11日(木・祝)・11月3日(木・祝)

参加者：200人（幼児24、小中学生78、一般98）

費用：入館料のみ

講師：中根石材

内容：職人の道具ゲンノウ（かなづち）とセリヤ（くさび）を用い、花崗岩を割る体験をした。

●ネイチャーゲーム

実施日：5月15日(日)・11月3日(木・祝)

参加者：171人

費用：無料

講師：ボランティア

内容：博物館の中庭でネイチャーゲームを楽しんだ。

●よく飛ぶ竹とんぼをつくろう

実施日：土日等（4回実施）

参加者：17人

費用：100円

講師：職員（安藤）

●手づくりアクセサリー

実施日：11月3日(木・祝)

参加者：46人

費用：500円～800円

講師：職員・ボランティア

③ストーンハンティング

地元苗木の砂の中から小水晶をさがすストーンハンティングは、親子連れ、団体見学・学習などに幅広く人気があり、当館の目玉のひとつである。館正面の「水晶広場」または「きらら広場」（雨天時等に利用）において、常時「水晶さがし」が体験できる。個人参加および事前予約による団体利用に対応し、来館者の思い出づくりや、来館者サービスの一環として実施している。本年度のストーンハンティングの参加者は、総入館者数に対して半数を超える約66%の利用率であった。多くの方が水晶さがしを楽しまれた。今後も水晶さがしができる博物館として、広報していく。

友の会と協力しながら、水晶を含む土砂の確保に努めている。

利用状況

場 所	実施日数	参加者	内 訳		
			幼児	小中学生	一般
水晶広場	219	8,702	1,450	2,715	4,537
きらら広場	65	1,173	160	381	632
合 計	*延べ日数 284	9,875	1,610	3,096	5,169

④講演会

- 企画展記念講演会「街の中で見つかるすごい石～都会は石材博物館」

実施日：11月13日(日) 13時30分～15時

講 師：西本昌司（愛知大学教授）

参加者：15人（一般）

⑤夏休みなんでも相談

期 間：夏休み期間（7・8月）

内 容：主に地学分野の自由研究についての相談や質問に応えた。

相談者：8件

(2)団体学習

当館と学校や公民館等の団体が、共に作成したメニューや教材などを使い、参加者の学習効果を上げる場合と見学やフィールド体験などを中心としたものがある。利用者側の目的に応じて対応している。また、要望があれば他の機関及び施設へ職員を派遣し、希望に応じている。本年度は次のとおりである。



団体学習

①利用状況 *館外利用・出前事業含む

区 分	件数	人数	備 考
幼稚園・保育園	6	310	苗木保育園、下野保育園 他
小 学 校	6	234	南小学校、加子母小学校 他
中学校・高等学校	3	111	苗木中学校 他
大 学 等	7	129	岐阜大学、名古屋大学 他
そ の 他 団 体	20	559	恵那市民講座、河川環境楽園自然発見館 他
合 計	42	1,343	

②館外利用・出前事業

依頼に応じて職員が講師として出向き、講座を実施した。

区 分	件数	人数	備 考
そ の 他 団 体	5	262	図書館くらぶ、鉱物博物館友の会、こどパピ 他

2 教育支援

小中学校の理科教員や教育機関・教育関係団体に対する教材製作、教材活用さらには博物館活用等について、職員が実習やその援助、協議等で支援していくものと、学芸員資格取得に伴う博物館実習生の受け入れ等がある。希望に応じて実施する。

(1)学芸員実習

実習生：2人

期 間：9月3日(土)～9日(金)（6日間）

内 容：「資料調査・整理」「展示」「教育普及活動」の3分野を網羅した実習を行った。

(2)職場体験学習

中津川市内の中学校からの要請により、職場体験学習を受け入れた。

- 苗木中学校 2年生 2人 10月19日(水)~20日(木)
- 内 容：清掃、教室準備補助、団体利用の対応補助など

3 情報・教育サービス

当館ではレファレンスコーナーとその周囲で、次のサービスを実施している。

内 容	備 考
図 書 閲 覧	地学、植物等自然に関する一般書、専門書及び雑誌等
地 形 図 閲 覧	1/25000の地形図（関東地方から近畿地方1330枚）
標 本 閲 覧	鉱物300種、岩石300種、化石100種、中津川市の川原石135点。閲覧申し込みが必要 本年度は31件81人が利用
自然史系博物館情報	全国の主な自然史系博物館33館の書誌情報の閲覧
観 察 コ ー ナ ー	実物標本を自由に観察できる。内容：水晶、方解石、鳴石、苗木地方産出鉱物標本
ホ ー ル	岐阜県の石3種を展示
標本紹介コーナー	寄贈寄託された標本などを紹介する場として設けている
ロ ビ ー	展示紹介 苗木産大型晶洞標本2点、苗木みかげ石の仕上げサンプル12点、さざれ石1点

4 普及イベント

(1)入館無料デー

博物館について広く知っていただく機会として、館内を無料開放し、以下のような催しを開催した。

- 5月15日(日) 国際博物館の日記念 来場者348人
ストーンハンティング（水晶さがし）参加者281人
石割体験 参加者80人
ジューストーンさがし 参加者113人
木かげの絵本ひろば 参加者65人
ネイチャーゲーム 参加者70人
ツリークライミング 参加者11人
- 7月24日(日) 来場者220人（ミュージアムフェスタとしてのイベントは新型コロナウイルス感染状況により中止）
- 8月2日(火)~8月21日(日)
中津川ロータリークラブPresents “65周年事業” 家族で行こうよ！発見！中津川わくわく博物館 来場者2,757人
中津川ロータリークラブが設立65周年事業として、期間中入館料を負担くださり、来館者の入館を無料とした。中学生以下の子どもには、それぞれの館のデザインの缶バッジをプレゼントした。
- 11月3日(木・祝) 文化の日 来場者605人
ストーンハンティング（水晶さがし）参加者485人、石割体験 参加者70人
ジューストーンさがし 参加者227人、クイズラリー 参加者282人
手づくりアクセサリ 参加者46人、
木かげの絵本ひろば・ネイチャーゲーム 参加者101人
よく飛ぶ竹とんぼをつくろう 参加者7人



無料デー(ストーンハンティング)

(2)地質の日記念事業

日本地質学会などにより制定された「地質の日」を記念して協賛事業を行った。

- 5月15日(日) 石割体験 参加者80人

5 その他

(1)フィールドミュージアム活動

「夜明けの森きらめきパーク」と名付けた博物館周辺のフィールド一帯は、親子をはじめ利用者が自然と触れあい、楽しく学習し、また健康増進に役立つレクリエーションも兼ねた知的レクリエーションゾーンとして下記のフィールドアイテムを利用し活用をはかっている。

- フィールドアイテム

1. 散策路：ベンチ・野外卓、東屋、樹名板、自然説明板。
2. パノラマ案内板：地形の名称板
3. コウホネ観察所：擬木柵を設置し、観察の便を図る。
4. ネイチャーオリエンテーリング：散策路沿いに設置した自然に関する質問板（全20基）に解答しながらオリエンテーリングのようにめぐる。

ネイチャーオリエンテーリングの利用状況は11件29人であった。

5. おさんぽカード：乳幼児親子向けに散歩用のカードを配布。

おさんぽカードの利用状況は182枚244人（教室・ワークショップ利用含む）であった。

3. 調査研究

平成27年度から導入した収蔵資料管理システムへの登録資料情報の移行に伴い、個々の資料データを再検討・調査し更新している。このほか、未登録資料と新着資料についても、資料調査を行い新たに登録した。

4. 資料の収集・保存

1 寄贈資料

本年度における資料寄贈は、標本資料10件であった。

氏名	資料名	氏名	資料名
渡辺雅幸氏	鉱物標本14点	藤原勝氏	鉱物標本一式
柳田透氏	鉱物標本一式	下坂康哉氏	鉱物・岩石標本等一式
三上勇氏	鉱物標本4点	非公表	鉱物標本等一式
加藤國男氏	岩石標本4点	非公表	鉱物・化石標本13点

2 図書資料

図書から得られる情報は、調査研究・企画教育など博物館活動に不可欠である。当館では専門書や学術誌のほか普及教育用図書も収集している。本年度購入した図書は62点、寄贈は13点である。

氏名	資料名
花岡ふさえ氏	図書10点
柳原國良氏	図書3点

5. 広報活動

1 広報

6館の情報提供として、市民向けには市広報誌に毎月「学ぶ・遊ぶ・よろこぶ」を掲載し、イベント情報などを提供した。また、より多くの人に情報を伝える館広報誌として「中津川市博物館だより 恵那山」を4回発行した。いずれも当館が編集担当である。

企画展の開催案内は、市・館広報誌、市記者会をはじめとする報道機関、雑誌などにポスター、チラシ、

リーフレット、開催概要などを提供した。また市内小中高、関係施設、店舗をはじめ全国の関係博物館・教育機関・大学などにポスターやリーフレットなどを配布した。市内ではポスター掲示も行った。教室などの情報は、中津川市内・隣接する恵那市内の小中学校へ募集案内を配布し（全児童・生徒分）、インターネットのウェブサイトにも同様に情報を掲載した。また市・館広報誌、新聞などにも情報提供した。

インターネットのウェブサイトは、情報発信として広く活用している。博物館の利用案内や施設の概要のほか、企画展案内・教室募集案内、博物館出版物の通信販売案内などを掲載し、適時更新を行った。

2 刊行物

5館の活動記録をまとめた「中津川市の博物館年報 第23号」を発行した。

6. 友の会

鉱物博物館友の会は、平成12年3月15日に発足した。博物館の活動等に参加・協力し、会員が自然科学について興味をもって楽しく学び、会員相互の親睦を図ることを目的としている。

事務局は博物館内に置いている。

●会員（令和5年3月末）40人

一般会員（会費3,000円）33人 賛助会員（会費5,000円）7人

●役員（令和4年度）

会 長：佐々木 孝 副会長：丹羽利幸

理 事：中根伸次・西尾雅秋・原 令子・早川 茂・片山正敬・宮嶋穂波（館長）

顧 問：小島幸彦

事務局：西尾雅秋（理事・会計） 監 事：大西泰裕・佐尾寿子

●事業

①普及事業

博物館との共催・協働により取り組んだ。

●石割体験

5月15日(日) 国際博物館の日記念入館無料デー、地質の日記念事業

7月24日(日) 中止

8月11日(木・祝)

11月3日(木・祝) 文化の日協賛事業

●ボランティアガイド活動「キララガイド」

6月9日(木)

●ミュージアムフェスタ実行委員会による催し

5月15日(日) 国際博物館の日記念入館無料デー

7月24日(日) ミュージアムフェスタ2022 イベント中止

11月3日(木・祝) 文化の日入館無料デー

②見学旅行

会員と一般を対象として行った。

名古屋市科学館・多治見市モザイクタイルミュージアム 8月21日(日) 参加者27人

③その他事業

4月20日(水) 水晶広場用土の調査

5月9日(月) 夜明けの森環境整備（草刈り）

6月3日(金) 花壇植栽準備

6月4日(土) 花壇植栽ボランティア

7月19日(火) 夜明けの森環境整備（草刈り）

10月31日(月) 夜明けの森環境整備（草刈り）

11月4日(金) 花壇植栽準備

- 11月5日(土) 花壇植栽ボランティア
- 11月25日(金) 水晶広場用土採集
- 12月22日(木) ミニ門松づくり講習会
- 12月24日(土) 教室「ミニ門松づくり」ボランティア
- 2月21日(火) 環境整備(駐車場入り口の木の枝伐採)
- 3月16日(木) 水晶広場用土搬入

④広報

会員へ次の情報案内をした。

- 友の会会報「きらら」を88号から91号まで発行し、送付した。
- 令和4年度の企画展案内、行事案内、中津川市博物館だより、企画展解説書などを送付した。

⑤理事会

計12回開催した。

7. ボランティア活動支援

中津川市文化スポーツ施設サポーターポイント制度を引き続き実施している。当館では、イベント補助、花壇手入れ、草刈りなどの活動が行われている。

なおこの他に、友の会によるボランティア活動も実施されている。友の会内部のボランティアガイドグループ「キララガイド」の活動も継続して行っている。

8. 新型コロナウイルス感染症関連の対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染状況等に応じて下記のとおり対応した。

(1)事業の中止・延期

- ミュージアムフェスタ2022：イベント中止 7月24日(日)

(2)その他

- 手を触れるコーナー等の一部利用休止
- 団体利用・催し開催時等の利用人数制限
- 利用者記入票の記入実施(10月まで)
- 入館者の検温実施
- 入館者の手指消毒実施

9. その他のトピックス

- 共通年間パスポートの運用継続
- 提携先会員証等による割引継続
- 中津川市官民連携による文化観光資源活用テスト事業としてかりんとう販売継続

(8) 調査のまとめ

☆施設管理

- ・市運営 5 館の一括管理の中心施設として活動を行っている。
- ・5 館の年間事業実績の報告書(年報の発刊)定期発送している。
- ・中津川鉱物館と名古屋大学博物館との相互協力に関する協定を平成 28 年 5 月に締結している。
- ・施設裏手の「夜明けの森」のフィールドの活用した取り組みが充実している。
- ・市民と施設を繋ぐ「私の展示室」という個人コレクションの展示を 40 回開催している。市民と博物館を繋ぐ上でも大事な取り組みと思う。
- ・鉱物をモチーフとした建物は、鉱物産地のランドマークとして記憶に残る素晴らしい建物である。
- ・地域の地質を説明するジオラマと説明資料が素晴らしい。また、十分なスペース(一室)とっていることに意義を感じた。
- ・鉱物を探す広場(施設入り口前)＊地域の地層から土を運んでいる。(本物志向)
- ・鉱物産地として知られる「苗木地方」にある地質系の自然誌博物館であり、市立鉱物館としては日本三大鉱物産地としての誇りが感じることができる。
- ・水晶・トパーズといった産出鉱物を多数展示していて、鉱物や地域の地質について学習できるほか、代表的な収蔵品としては、レアアースを含む鉱物など貴重な標本からなる「長島鉱物コレクション」。
- ・砂の中から小水晶をさがす「ストーンハンティング」はとても魅力的である。
- ・公立の鉱物博物館として常設、企画展をはじめ学習支援等について多岐にわたり充実している。
- ・石と生きていたまちとして誇りや幼少期からの教育から、博物館を取り巻く住民との関わりに重点を置いている。
- ・名古屋大学等との連携や研究拠点として充実している。
- ・採掘に関わる規制が強まる中、努力されている。
- ・入口を入れてすぐ階段になっていたのが、障がいのある方は利用しにくいのはと思ったが、当日車イスの園児が利用していたので、対応策は取られていると思われる。
- ・地震や火事など非常時の際の避難経路が、もう少し目立つように表示されるとよいと思った。
- ・鉱物博物館以外に平成 2 年開館の苗木遠山資料館、平成 4 年開館の子ども科学館、平成 7 年開館の東山魁夷心の旅路館、平成 16 年開館の中山道歴史資料館の全部で 5 つの施設があり、市文化スポーツ部文化振興課で統括管理している。
- ・市の人口は 74,046 人(令和 6 年 4 月 1 日現在)であり、市町村合併により多くの類似施設が市の管理となったが、5 館の管理に要する経費は、令和 4 年度決算では歳入 10,078 千円に対して歳出 100,898 千円である。文教施設には、ある程度の経費負担は必要と理解はできるが、今後官民連携の手法や統廃合の必要性が出てくるのではないかと。

- ・ 鉱物博物館事業は、展示企画展示事業のほか多岐にわたっている。
 ※普及事業（学習支援・教育支援・情報教育サービス・普及イベント）
 幼児から小中学生、一般まで年間を通し数多くの体験活動があり、楽習とも表され多くの参加者がある。
- ・ 入館無料デーを設け（年約4回）開放し、入館者増を図っている。
- ・ 名古屋大学博物館との協定
 平成28年、自然科学分野の教育・研究活動について相互協力に関する協定を締結。講師等の相互派遣、収蔵資料の相互活用、職員研修や学生教育に関する協力により人材の育成を図ることを目的としている。
- ・ 博物館ボランティアと友の会
 ボランティア（約20人） イベント補助、草刈り花壇の手入れ
 友の会（約40人） きららガイド、14の日に研修、ワークショップ等
- ・ 利用者数は、コロナ禍で減となるものの、地元ライオンズクラブの協力により、無料開放期間を設けたり、民間の協力で様々なワークショップを行うなど工夫しており、安定している。
- ・ 博物館のボランティアは2種類ある
 1. 市公共施設の環境整備団体
 2. 友の会（イベント、ワークショップ等の補助）
 - * なかなか増えない
 - * 説明よりも参加者に楽しさを伝えてほしいとお願いしている。



☆イシニクルでも取り入れられると感じたこと

- ・幼稚園児でも楽しめる展示の工夫。
- ・鉱物採取体験場の設置。
- ・博物館ボランティアの確立。
- ・産総研地質調査センターとの連携協定。
- ・「夜明けの森」というフィールドでの活用が充実している。石川町でも地質・地形のフィールドを指定（変成岩で形成される今出川溪谷、石川町最高地のにほんぶな、谷地低地分水界、鉱山跡など）して体験活動を充実してはどうか。
- ・興味を持つためには鉱物の採取体験は必須だと思う。石川町ではどんな方法仕組みができるか。
- ・立地環境、施設規模ともに比較の対象とならないことは明らかであるが、石との触れ合いの機会の事業化は可能と思われることから、子どもたちへの石の学びの拠点として活かせるのではないか。
- ・入ってすぐの所に（階段の上）、石に触れるスペースがあり、Welcome 感があつた。最初に目に入る物を意識して展示することは、インパクトが強くなりリピーターを増やすことにもつながると思う。
- ・ストーンハンティング（水晶さがし）の場所では、石川町ではごく普通に見られる雲母がほとんど見られなかった。雲母を利用した体験コーナーの企画があつてもおもしろいと思った。
- ・三大鉱物資源の他の二か所のコーナーがあつてもよいと思う。相互協力により施設のレベルアップにつなげていくこともできる。
- ・鉱物採取体験施設や喫茶施設は、賑わい創設の為にはぜひとも必要と感じる。その際の費用対効果が気になるころではあるが。
- ・子どもも大人も体験できる機会がある（例勾玉、アクセサリ作り等）
- ・節目の時（開館記念日・文化の日・町政施行日・14（石）の日等々）に入館無料デーを設ける。
- ・年間パスポートまたはポイントカード発行（ポイント数点で一回無料）のように、何度も足を運びたくなる企画が必要。
- ・ボランティア制イベント時の手伝いなど。
- ・国道沿のイシニクルの看板脇に、企画展や催事の看板（表示）が必要。
- ・中津川市文化スポーツ施設サポーターポイント制度の実施により、イベント補助、花壇手入れ、草刈りなど、環境美化においてもボランティアの支援を受けている。これとは別に、平成12年に発足した鉱物博物館友の会（会員40名）があり、イベントの共催や、環境整備も行っていることから、職員だけではできない行事運営を行い、利用者へのサービス向上につなげる努力をしている。施設運営をボランティアとともに行うことは簡単ではないが、ボランティアポイント事業は検討してもいいのではないかと思う。

☆調査を実施しての所感

- ・教育的観点からの利用者増進を主眼にしている。
- ・鉱物標本などの購入予算の確保。
- ・石川町の特徴を明確に。
- ・鉱物（特にレアアース）からどんな金属が生まれ、どんな先端技術に使われているのかの展示。
- ・宇宙開発に鉱物、岩石、地層などの知識の必要性。
- ・フィールドを活用し、特徴的な地層、地形の見学の場を整備する。
- ・鉱山跡地の整備及び鉱物採取体験のためのゾリの確保。
- ・地質調査センター職員から指摘されたジオパーク申請の検討。
- ・イシニクル開館後のこの時期での視察は、これからの運営を考える上で価値のある視察であったと考える。この施設を次世代の人たちに繋いでいくために、工夫が必要であり、大学や専門の研究機関などと連携し、専門的でありながら、子ども達に優しく、ワクワクして見てもらえるような展示・体験活動が大切である。
- ・中津川市には名古屋市の研修施設があり、それにより一定の入館者が見込めるとのことで、羨ましいことである。
- ・体験型の事業をすることが興味を持ってもらうために必要だが、人手が必要。ボランティア育成の質問をしたが、「苦勞している」とのこと。
- ・館長が運営の質問の中で「社会教育施設なので収入で賄おうとしていない。子どもたちへの投資と考えている」と言い切った。一方、学芸員からは「中学生になると観に来てくれない」との声も聞かれた。
- ・教育施設であることは事実だが、民間手法や民間との協業を取り入れることも、知ってもらい関わる事の一步前進になると考える。
- ・今回の研修は、民間と行政の対照的な施設研修で考えさせられるものがあつた。
中津川鉱物博物館は、展示ケース・照明、御影原石・加工後触れる展示、サマルスキー体験、子供向けPCなどレベルの高さを感じた。来館者の様子を聞き、専門性が強くなるほど大衆の物ではなくなるのか？
三大鉱物の産地と言われる石川町の歴史、「イシニクル」を核に広めたいと強く思った。
- ・展示においては学術的な知見から見ただけではなく、解説、ガイドの充実は必須と感じた。何もなければ、ただの石である。
- ・石に触れる機会を通して、地域の文化、風土、鉱石に対する知見を広める拠点とすべき、多くの住民と関わりながら、学びの施設、学習支援を積極的に試みることが大切と感じた。
- ・本町は、歴史と鉱物の二本立ての施設なので、そのバランスをどう考えていくか明確な方針が必要だと感じた。
- ・近くに宿泊体験できる施設があるというのは、毎年一定の来場者数を確保することができるという大きな利点がある。

・開館から26年。10周年に登録博物館となり、名古屋大学博物館との相互協力に関する協定締結から8年、より専門的・学術的な視点でのアプローチが可能になっていると感じた。

・公的施設ということもあり、「利益よりも来場者を増やすことを重視している」との回答であった。今後、イシニクルへの予算化にあたっては、目的を明確にしておく必要があると感じた。

・鉱物博物館の入館者は、令和4年度14,916人と、前日視察の民間博物館の1割にも満たない、まして中津川ロータリークラブ創立65周年記念事業の支援として、夏休み期間中来館者の入館を無料にしている。この違いは何か、調査研究の必要はあると考える。

・昭和39年、長島父子から鉱物コレクション寄贈の申し入れがあり、平成2年第三次総合計画に鉱物資料館建設を位置づけ、平成10年開館まで、実に8年を要した。その間建設準備委員会を8回、研究委員会を10回開催し、各種調査、研究、視察、計画を練った。（唐突に持ち上がった？本町とは違う）

・訪問した時に、保育園の子どもたちがバス2台で来て、きらら広場で水晶探しをしていた。幼児期から鉱物博物館の見学は流石にすごいと思った。

・展示の工夫は勿論、体験学習、モノ作り教室、観察会、講演会、フィールドミュージアム活動等々、幼児から高齢者まで学び、楽しめるメニューの多さに驚いた。何度も足を運ばせる、運びたくなる施設と思った。

・ライオンズクラブや民間団体、ボランティアをうまく巻き込んでイベント企画や運営ができていたと感じた。また、常設展示は未就学児には難しい内容と感じたが、学習支援やワークショップが大人から小さな子供まで楽しめる内容であり、三世代交流の場ともなると感じた。特に屋外のストーンハンティングは、鉱物の継続的確保が困難とはいえ、未就学児が夢中で楽しんでおり、魅力的だと感じた。

・イシニクルもハード面は限られるが、ソフト面で工夫をされたらいいと思う。展示物を見て、きれい、変わってる、珍しいで終わって後は忘れてしまう。

しかし、図録などがあつたり、触ったり、作ったり、体験したものは残る。



